

今月のトピックス 「長距離飛来性ウンカについて」

1 空飛ぶウンカ

イネの重要害虫であるセジロウンカとトビイロウンカは国内では越冬できません。毎年中国南部やフィリピンの方から飛んできます。梅雨頃以降の前線に発達する気流に乗って、日本まで吹き飛ばされてくるのです。海に落ちず、日本までたどり着いた成虫の大群は、水田で 1、2 世代を経て爆発的に増殖し、イネを枯らすほどの被害をもたらすことがあります(図 1)。



図 1 トビイロウンカによる坪枯れ

2 飛来予測

飛来予測のシミュレーションが発表されていて(図 2)、当所でも予察根拠に使っています。本県まで拡散が予測され、さらにその時期に九州を中心とする西日本の予察灯で大量(5 日当り千~万頭単位で)に誘殺されれば、本県にも飛来した可能性が高いとみなします。

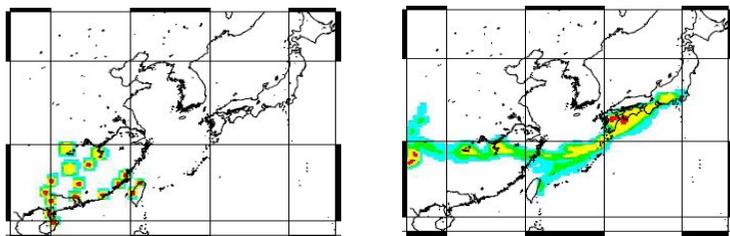


図 2 ウンカ類飛来予測; 左図の地域から 2009 年 6 月 30 日に飛び立てば、2 日後には右図のように拡散する(農研機構・中央農研・九州沖縄農研・原研 <http://agri.narc.affrc.go.jp/indexj.html> より改変)

3 本県の実態

九州ではよく大発生しますが、三重県まで大群でやってくることはあまりありません。当所の発表する発生予察に従い、必要な年だけ防除してください。ただし、風の吹き溜まりのような谷や山間の地形では、特定の圃場にたびたび被害の出ることがあります。また、太平洋に面する県南部では、北部よりよく発生する傾向があります。

4 発生活長予測

よほどの大群でない限り、実被害が出るのは水田に定着してから 2 世代目の成幼虫からです(飛来数がそれ程多くなければ 3 世代目から)。飛来日が早い場合は、遅い作付けでは 3 世代目による被害が出やすくなります。

表 1 で、トビイロウンカの大群が 6 月 10 日に来たとする、7 月 12 日の数日過ぎから 2 世代目の幼虫が加害を始めます。大半のコシヒカリでは次の世代が出る頃には収穫を終えていることとなります。

表 1 発生活長予測(左:セジロウンカ、右:トビイロウンカ)

(有効積算温度の考え方を熊野市日平均気温平年値を使用して計算)

飛来日	飛来後第1世代羽化日	第2世代羽化日	第3世代羽化日
6/10	7/8	8/1	8/24
6/20	7/16	8/8	8/31
6/30	7/23	8/15	9/8
7/10	8/1	8/24	9/18
7/20	8/10	9/2	9/30

飛来日	飛来後第1世代羽化日	第2世代羽化日	第3世代羽化日
6/10	7/12	8/6	8/30
6/20	7/20	8/14	9/8
6/30	7/27	8/20	9/16
7/10	8/4	8/28	9/25
7/20	8/14	9/8	10/10

今年は 7 月 10 日現在で多飛来が認められていません。つまり、早い作付けならもう安心ということです。